

集した記録を紹介しておく。

氷上郡〔山本, 1958〕. 多可郡加美町三谷 (1♀., 29-IX-1974). 神崎郡大河内町川上 (1♂., 22-X-1977). 揖保郡新宮町福原 (1♂, 1♀, 10-V-1992, 2♂, 6♀, 17-IX-1992). 相生市三濃山 (1♂, 20-V-1973, 1♀, 18-V-1973, 2♂1♀, 1-VI-1974, 1♀, 8-VI-1974). 宍粟郡赤西 (1♂1♀, 3-VI-1979, 2♂1♀, 23-VI-1979). 養父郡氷の山〔高橋, 1959〕. 美方郡扇ノ山〔辻, 1963., 辻, 岸田, 1972., 高橋, 1975〕

ヒトクチャケで採集した甲虫類・Ⅲ

(兵庫県甲虫相資料・275)

高橋 寿郎

ヒトクチャケにやってくる甲虫達については筆者2回にわたって発表した(1988, 1990). 今回は1991年に加古川市上荘町白沢で調査・採集した結果を発表したいと思う。

今回の調査・採集も全面的に蜂谷幸雄氏の御協力を頂いた。ここに記して厚く御礼申しあげる。

I. 今回調査地域の概説

今回報告する調査地域は加古川市上荘町白沢(標高約110m)にて今迄報告した各地点より一番南側、海岸線にわりと近い地域である。数本の松に発生していた数10個のヒトクチャケより採集したものである。今迄の地点に比べてここが一番数多くヒトクチャケを見出したが全般にヒトクチャケが小さく全く甲虫のみられなかったものが数多くあった。また9月の調査ではヒトクチャケをほとんど見られず若干見つけたものも小さく虫の入っている痕跡も見られなかった。

調査日は次の通りである(全部1991年)5月9日, 30日. 6月21日, 26日. 9月4日, 12日の6回。

II. 今回の調査でヒトクチャケより採集した甲虫類.

(○印の種は今回初めてヒトクチャケより記録するもの。数字を丸で囲んだのは採集個体数)

- | | |
|---|-----------------------------|
| ○ <i>Heterhelus japonicus</i> (Reitter, 1877) | キイロチビハナケシキスイ (ケシキスイ科) ② |
| ○ <i>Brachypterus urticae</i> (Fabricius, 1791) | コクロチビハナケシキスイ (ケシキスイ科) ① |
| <i>Aphenolia pseudosoronia</i> Reitter, 1884 | オオヒラタケシキスイ (ケシキスイ科) ⑥ |
| ○ <i>Omosita colon</i> (Linnaeus, 1758) | キボシヒラタケシキスイ (ケシキスイ科) ① |
| ○ <i>Trimonus adpresus</i> Murray, 1864 | オオメアカヒラタケシキスイ (ケシキスイ科) ① |
| <i>Cryptophagus enormis</i> Hisamatsu, 1962 | オオナガキスイ (キシムシ科) ⑱ |
| ○ <i>Cryptophagus decoratus</i> Reitter, 1874 | クロモンキスイ (キシムシ科) ① |
| ○ <i>Cryptophagus callosipennis</i> Grouvelle, 1919 | ヨツモンキスイ (キシムシ科) ③ |
| ○ <i>Cryptophagus cellaris</i> (Scopoli, 1763) | ウスバキスイ (キシムシ科) ① |
| <i>Dacne picta</i> Crotch, 1873 | セモンホソオオキノコムシ (オオキノコムシ科) ① |
| ○ <i>Tritoma niponensis</i> (Lewis, 1874) | クロチビオオキノコムシ (オオキノコムシ科) ② |
| ○ <i>Aphanocephalus hemisphericus</i> Wollaston, 1873 | クロミジンムシダマシ (ミジンムシダマシ科) ① |
| <i>Mycetophagus antennatus</i> (Reitter, 1879) | ヒゲブトコキノコムシ (コキノコムシ科) ① |
| <i>Mycetophagus hillerianus</i> Reitter, 1877 | ヒレルコキノコムシ (コキノコムシ科) ③ |
| <i>Mycetophagus pustulosus</i> (Reitter, 1889) | コマダラコキノコムシ (コキノコムシ科) ⑫ |
| <i>Parabolitaphagus felix</i> (Lewis, 1894) | カプトゴミムシダマシ (ゴミムシダマシ科) ① |
| <i>Platydema subfascia</i> (Walker, 1858) | ベニモンキノコゴミムシダマシ (ゴミムシダマシ科) ⑯ |
| <i>Platydema marseuli</i> Lewis, 1894 | アオツヤキノコゴミムシダマシ (ゴミムシダマシ科) ⑩ |
| ○ <i>Alphitophagus bifasciatus</i> (Say, 1823) | フタオビツヤゴミムシダマシ (ゴミムシダマシ科) ① |
| <i>Ischnodactylus loripes</i> Lewis, 1894 | ヒラタキノコゴミムシダマシ (ゴミムシダマシ科) ⑮ |

以上加古川市でのヒトクチャケより採集した甲虫は6科20種(120個体)になる。その内10種のも
のが新顔として採集出来た。

従来の場合と採集出来たものが若干異なるように思われる。

図2 兵庫県南部でヒトクチャタケより採集した甲虫類一覧表 数字は採集個体数

種名	西宮市船坂		神戸市 逢山峽	加東郡 社町三草	加古川市上荘町白沢				計
	1987 VI・5	1987 VI・11	1987 VII・7	1989 VII・14	1991 V・9	1991 V・30	1991 VI・21	1991 VI・26	
Colenis sp.				1					1
キイロチビハナケシキスイ					2				2
キノコヒラタケシキスイ	5								5
コクロチビハナケシキスイ					1				1
オオヒラタケシキスイ	1		8		4			2	15
キボシヒラタケシキスイ					1				1
チビムクゲケシキスイ			1						1
オオメアカヒラタケシキスイ								1	1
オオナガキスイ	7	7			1	14	2		31
クロモンキスイ					1				1
ヨツモンキスイ					3				3
ウスバキスイ					1				1
セモンホソオオキノコムシ	14					1			15
クロチビオオキノコムシ					1				1
クロミジンムシダマシ								1	1
ヒゲブトコキノコムシ	12			4		1			17
ヒレルコキノコムシ	3				1			2	6
コマダラコキノコムシ				1	1	11			13
カブトゴミムシダマシ	4		9		4			1	18
オオメキノコゴミムシダマシ	2								2
チビキノコゴミムシダマシ	2			1					3
ツノボソキノコゴミムシダマシ	8	3							11
ヒメオビキノコゴミムシダマシ	1			1					2
ベニモンキノコゴミムシダマシ	18			13	1	30	4	2	68
アオツヤキノコゴミムシダマシ						8		2	10
フタオビツヤゴミムシダマシ					1				1
マルツヤキノコゴミムシダマシ				1					1
ヒラタキノコゴミムシダマシ	8	4		4	4	5	6	3	34
ミツノゴミムシダマシ	1								1
マツオオケイゾウムシ		1							1
種類数	14	4	3	9	14	7	3	8	30
採集個体数	86	15	18	30	23	70	12	14	268

Ⅲ. まとめ（今迄の全部の記録による）

○ 兵庫県の瀬戸内海に面した西宮市・神戸市・加古川市・加東郡で出会ったヒトクチャタケに集まった甲虫は8科30種であった（総個体数 268exs.）.

○ その内一番多くまたその大部分のヒトクチャタケに見られるのはベニモンキノコゴミムシダマシが群を抜いて多い。即ちヒトクチャタケにくる甲虫のトップである。次いで多いのはヒラタキノコゴミムシダマシ、オオナガキスイの2種である。こちらも兵庫県下ではわりとどこにでもいる種のようなのである。カブトゴミムシダマシ、ヒゲブトコキノコムシ、オオヒラタケシキスイ、セモンホソオオキノコムシもわりにやってくる甲虫であるがセモンホソオオキノコムシは普遍的ではないようである。

- 1頭とか数頭の種は元来ヒトクチャタケにやってくるのでなく松の害虫とかたまたま通りすがりに入り込んだのではないかと考えられる。1991年6月26日の観察で甲虫ではないが異翅亜目ヒラタカメムシ科の1種マツヒラタカメムシ *Aradus unicolor* Kiritschenko? ではないかと思われる亜成虫が何頭かヒトクチャタケの中より得られた。名前のごとく松の樹に見られるヒラタカメムシでたまたま入り込んでいたのではないかと考えられないことはない。
- 所変れば品変るで今回の調査は兵庫県下での海岸線に近い所でのヒトクチャタケの観察であるが地域を変えて見たらヒトクチャタケにやってくる顔触れは変るのではないかと思われる（神奈川県の記事では兵庫県では見られなかった種の記録もある）。広く調べて見たらまだまだヒトクチャタケに来る甲虫の顔触れも多彩になるのではと思っている。

参考文献（図鑑類は省く）

- 林 長閑(1986) 甲虫の生活. 築地書館.
- 平野幸彦(1973) ヒトクチャタケより採集した甲虫類・I. 神奈川虫報(42): 36-37.
- S. Hisamatsu(1962) A New Species of Cryptophagus(Col.: Cryptohagidae), *Niponius*, 1(20): 1-3.
- 久松定成(1962) ヒトクチャタケをめぐる若干の甲虫類について. あげは(10): 8-10.
- 飯田信三(1938) ヒトクチャタケを繞る甲虫群. 昆虫界 6(56): 768-772.
- 宮武陸夫(1955) カワオソタケの甲虫類. 新昆虫 8(12): 2-8.
- 宮武陸夫(1960) アラゲカワラタケをめぐる昆虫類. あげは(8): 6-12.
- 中根猛彦(1948) ヒトクチャタケの甲虫類. 新昆虫 1(7): 288-293.
- 西川正明(1981) ヒトクチャタケの甲虫資料. 神奈川虫報(64): 23-25.
- 櫻井俊一(1990) ホウロクタケに生息していたゴミムシダマシ等. 山形昆虫同好会々誌(19): 25.
- 高橋寿郎(1988) ヒトクチャタケで採集した甲虫類. IRATSUME(12): 19-23.
- 高橋寿郎(1990) ヒトクチャタケで採集した甲虫類II. IRATSUME(13/14): 72-73.
- 玉貫光一(1930) ヒトクチャタケに寄生する昆虫類I(とくにカブトゴミムシダマシについて). 昆虫 4(4): 215-224.